

## 会長からのメッセージ

アンドレア・フェルプス 博士／臨床心理士 Andrea Phelps, PhD, M.Clin Psych

2026年3月24日と25日、ISTSS 理事会はオーストラリア・メルボルンにて年次中間会議を開催しました。2000年3月にメルボルンで第3回ISTSS世界大会が行われてから26年という節目にあたり、大変感慨深い機会となりました。会長として、メルボルン大学フェニックス・オーストラリア(Phoenix Australia - Centre for Posttraumatic Mental Health)で、まさに「ホーム」に皆さまをお迎えできたことを心より嬉しく思います。私たち理事会は世界中にメンバーがいるため、しばしば時間帯の違いから、誰かにとっては深夜、また別の誰かには早朝にオンライン会議を行うこともあります。しかし、直接顔を合わせて意見を交わせる貴重な時間は、何にも代えがたいものでした。



今回の会議では、多くの重要な戦略的議論が行われましたが、特に重要なテーマとなったのは、ISTSS戦略計画2023-2026のレビューと更新でした。このプロセスでは、経験豊富で魅力的な戦略コンサルタントであるPaul Dolan氏の支援を受けました。また、副会長のBrian Smith博士は、ISTSS事務局とともに、各委員会およびタスクフォースからのフィードバックを収集し、現行戦略計画の進捗評価に向けた重要な準備作業を行いました。理事会は、ISTSSリーダーシップ・カウンシルによって進められてきた取り組みの広がりや深さに、大きな感銘を受けました。

その後、私たちは、自らが置かれている環境についての戦略的分析を行いました。そこでは以下のような外的要因が検討されました：

- ・ 現在の地政学的状況
- ・ 政策および資金調達の動向
- ・ 関連学会、団体との関係性
- ・ システム上の課題
- ・ 会員のニーズ

これらすべてを「それはISTSSにとって何を意味するのか？」という視点から捉えました。

同様に、内部要因として：

- ・ 戦略的リスクと機会
- ・ 会員および社会に提供しているサービス
- ・ 高い成果と財政的安定性のバランス

これらについても検討し、同じ問いを当てはめました。

また将来の戦略計画を進めるにあたり、私たちは次の点を極めて簡潔に言語化することを求められました：

- ・ Purpose（存在意義）：なぜ私たちは存在するのか
- ・ Role（役割）：その目的に対してどのような役割を果たすのか
- ・ Vision（ビジョン）：どこを目指しているのか

そしてこの枠組みの中で、優先的な目標と具体的な施策や、活動を導く価値観について検討しました。



今回のセッションはとても活気にあふれており、理事会は 2027 ~ 2030年 ISTSS 戦略計画に向けて、新たな意欲と明確なテーマを得ることができました。

今後のコンサルテーション段階は、Brian Smith博士が主導する予定です。会員の皆様にも参加の機会をご案内しますので、ぜひご注目ください。皆様のご意見を心より歓迎します。

理事会がメルボルンを訪れた際のハイライトのひとつは、ISTSS 初の提携団体である「オーストラリアトラウマティック・ストレス研究会 ASTSS: Australasian Society for Traumatic Stress Studies」との交流でした。

ASTSSと、フェニックス・オーストラリアと共催でトラウマストレスシンポジウムを開催いたしました。これは、フェニックス・オーストラリア、ASTSS、ISTSS の間で、研究や政策、臨床、教育の取り組みを共有できる素晴らしい機会となりました。特に、各組織の歴史や発展、成果について意見を交換できたことは大変有意義であり、現在や将来の活動において、実際の体験や経験を取り入れるという共通の想いを再確認できたことも大きな喜びでした。

また、今回の訪問のもう一つのハイライトとして、ISTSS 前会長のSoraya Seedat教授がメルボルン大学精神医学部より招待を受け、名誉あるビーティー・スミス記念公開講演Beattie Smith Public Lectureを行いました。この講演シリーズは100年以上続いており、ヴィクトリア時代のオーストラリアで精神保健改革を推進したWilliam Beattie Smith (1854-1921) 氏の功績を称えるものです。Seedat教授は「子ども時代のトラウマの長い影 (The Long Shadow of Childhood Trauma)」と題して、満席の聴衆に向けて印象的な講演をされました。



写真にBronwyn Tarrant さんが写っていないこと、お詫びいたします。



メルボルン大学 精神医学部長 Chris Davey教授と Soraya Seedat教授

オーストラリアに来たら、やはり野生動物との出会いは欠かせません。メルボルン郊外のヒールズビル動物保護区 the Healesville Wildlife Sanctuary の住人たちから、ごあいさつをお届けします。

